

教育支援センター(適応指導教室)の実態調査について

都道府県名 市区町村名	
所属課名	
担当者名	
電話番号	
e-mail	

問1 教育支援センター(適応指導教室)の有無

1-1 教育支援センター(適応指導教室)の設置の有無について

貴教育委員会では、教育支援センター(適応指導教室)を設置していますか。当てはまるものに○を付けてください。(首長部局設置も含めお答えください。)

ア 設置している		イ 設置していない	
----------	--	-----------	--

- 「ア 設置している」に回答いただいた教育委員会は「問2～12」にお答えください。
 複数の施設を設置している場合には、施設ごとにお答えください。
 (分室、サテライト等を設置している場合には、運営主体の施設にまとめてお答えください。)
- 「イ 設置していない」に回答いただいた教育委員会は「問1」にのみお答えください。

1-2 教育支援センターを設置していない理由(教育支援センターを設置していない教育委員会がお答えください)

教育支援センター(適応指導教室)を設置していない理由について、以下の選択肢のうち当てはまるものを三つ以内選択して○を付けてください。

ア 通所を希望する不登校の児童生徒が少ないと見込まれるため	
イ 教育支援センターを運営する予算、場所の確保が困難なため	
ウ 不登校の児童生徒が通所できる施設(教育相談センター等)が他にあるため	
エ 近隣にある他の市区町村の教育委員会と提携し、受け入れてもらっているため	
オ 都道府県教育委員会が設置する教育支援センターの受入対象としてもらっているため	
カ その他 具体的な理由→	

教育支援センター(適応指導教室)の実態調査について

問2 教育支援センターの概況

2-1 設置者について、当てはまるものに○を付けてください。

ア 都道府県		イ 政令指定都市		ウ 中核市		エ その他の市町村	
--------	--	----------	--	-------	--	-----------	--

設置者として当てはまるものを次の①～③から一つ選択してください。

選択肢: ①「教育委員会」、②「首長部局」、③「①と②の共管」

2-2 施設の名称を記入してください。

2-3 教育支援センター開設年(西暦)

貴センターを開設した年を記入してください。

西暦	()年
----	---------------------------

貴センターの設置期間を次の①～④から一つ選択してください。

選択肢: ①「5年未満」、②「5年以上10年未満」、③「10年以上20年未満」、④「20年以上」

開設期間	
------	--

2-4 対象児童生徒

受け入れる対象となる児童生徒として、当てはまるもの全てに○を付けてください。

	小学生	中学生	高校生	高校中退	その他
ア 設置者が所管する地域に住所のある子供					
イ 設置者が所管する地域にある公立学校に通う子供					
ウ 設置者が所管する地域にある国立学校に通う子供					
エ 設置者が所管する地域にある私立学校に通う子供					

教育支援センター(適応指導教室)の実態調査について

問3 在籍者の状況

3-1 在籍者数・出席扱いの状況(平成26年度間)

平成26年度間に在籍した児童生徒について

- (1) 国公立別的人数
 (2) うち在籍校で指導要録上出席扱いの措置をとった人数
 (3) うち通学定期乗車券制度適用人数
 (4) 国・公・私立別、学年別在籍児童生徒数

を記入してください。

<国立学校在籍児童生徒>

	男子(人)			女子(人)			(4)学年別人数(人)						合計	
	(1)	(2)	(3)	(1)	(2)	(3)	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生		
小学生														0
							1年	2年	3年	4年以上	単位制			
中学生														0
高校生														0

<公立学校在籍児童生徒>

	男子(人)			女子(人)			(4)学年別人数(人)						合計	
	(1)	(2)	(3)	(1)	(2)	(3)	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生		
小学生														0
							1年	2年	3年	4年以上	単位制			
中学生														0
高校生														0

<私立学校在籍児童生徒>

	男子(人)			女子(人)			(4)学年別人数(人)						合計	
	(1)	(2)	(3)	(1)	(2)	(3)	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生		
小学生														0
							1年	2年	3年	4年以上	単位制			
中学生														0
高校生														0

<その他>

	男子(人)			女子(人)			合計
	(1)	(2)	(3)	(1)	(2)	(3)	
高校中退者							0
その他							0

<合計 在籍児童生徒>

	(4)の学年別人数(人)							
	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	その他	計
小学生	0	0	0	0	0	0		0
	1年	2年	3年	4年以上	単位制			
中学生	0	0	0					0
高校生	0	0	0	0	0			0
中退者							0	0
その他							0	0

3-2 在籍期間と学校復帰者数

平成26年度間に在籍した児童生徒の在籍期間の平均日数と学校復帰者数を記入してください。

<平均在籍期間>

次の選択肢により、各学年別の欄に当該学年の平均在籍期間を入力してください。

選択肢:①「3ヶ月未満」、②「3ヶ月以上6ヶ月未満」、③「6ヶ月以上1年未満」、④「1年以上」

	(4)の学年別人数(人)							
	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	その他	
小学生								
	1年	2年	3年	4年以上	単位制			
中学生								
高校生								
中退者								
その他								

<学校復帰者数>

各学年別の欄に当該学年の復帰者数を入力してください。

	(4)の学年別人数(人)							
	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	その他	計
小学生								0
	1年	2年	3年	4年以上	単位制			
中学生								0
高校生								0

※学校復帰については次の記述に基づいて回答してください。

文科省では、「指導の結果登校する又はできるようになった児童生徒」を次のように示しています。(文科省:児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査より)

「指導の結果登校する又はできるようになった児童生徒」とは、各学校が以下のような例を参考に、個々の児童生徒の状況に応じて判断し、継続的に登校できるようになったと認められる者をいう。
 ・1学期中は全く登校できなかったが、教育支援センター(適応指導教室)での支援を受ける中で、特定の教科の学習に興味を持てるようになり、3学期には、興味がある教科の授業がある日は登校できるようになった。
 ・中学3年生で2学期の前半までは月に1回程度しか登校できなかったが、担任が家庭訪問を繰り返す中で将来の進路などを自ら考えるようになり、その後、週に1回程度は登校するようになった。

3-3 小学校から中学校への進学段階における在籍者数について、その人数を記入してください。

①平成26年度中学校1年生の在籍者	0
②平成26年度中学校1年生の在籍者のうち、平成25年度にも在籍していた者の数	

3-4 平成26年度中学校3年生に在籍していた者のその後(平成27年度)の進路について、それぞれ人数を記入してください。

平成26年度中学校3年生に在籍していた者の数		0
ア 全日制高等学校	オ 各種学校、専門学校	
イ 定時制高等学校	カ 就職	
ウ 通信制高等学校	キ アルバイト	
エ 特別支援学校	ク 在宅	

3-5 対象児童生徒

貴センターで対象としている児童生徒は、どのような傾向か、当てはまるものを全て選択してください。

選択肢	○印	選択肢	○印
ア 学校に行きたくても行けないタイプ(不安など情緒混乱)		オ 学校に行きたくないタイプ(学業不振・きまり)	
イ 学校に行きたくても行けないタイプ(家庭環境など)		カ 人間関係によるタイプ (他の児童生徒との関係、教職員との関係、部活動など)	
ウ 学校に行きたくないタイプ(遊び・非行)		キ 意図的な拒否型の不登校児童生徒	
エ 学校に行きたくないタイプ(無気力)		ク 特別支援学校、特別支援学級に在籍する児童生徒	

教育支援センター(適応指導教室)の実態調査について

問4 職員の状況等

4-1 職員数

平成26年度の職員数を記入してください。(常勤職員とは正規職員、非常勤職員は1年間採用などの臨時職員のことをさします。)

	常勤職員数(人)	非常勤職員(人)
① 教育職系職員		
② 退職教職員		
③ 行政職系職員		
④ 心理系職員		
⑤ 社会福祉系職員		
⑥ 医療関係者		
⑦ 学生のボランティア		
⑧ 学生以外のボランティア		
⑨ その他 具体的に…		
合 計	0	0

4-2 資格等の状況

平成26年度職員のうち、教育や心理、福祉に関する資格や経験を有する人数を常勤・非常勤職員それぞれに記入してください。

資格・経験等		常勤職員	非常勤職員
①	教員免許(小・中・高等学校の教員免許)		
	うち小・中・高等学校の教員経験あり(特別支援学校、中等教育学校を含む)		
	うち生徒指導に関する校務分掌の経験あり		
②	臨床心理士等の心理に関する専門的な資格		
③	社会福祉士、精神保健福祉士等の福祉に関する専門的な資格		
④	その他、上記以外(右に資格を記述してください。)		

4-3 外部専門家の活用状況

4-3-①平成26年度のスクールカウンセラー等の心理の専門家の配置状況について、人数や日数を記入してください。また、配置されていない場合は、対応について当てはまるものに○を付けてください。

配置されている	配置されていない												
↓	↓												
<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 70%;">人数(人)</td> <td style="width: 30%;"></td> </tr> <tr> <td>週当たりの延べ日数(日)</td> <td></td> </tr> </table>	人数(人)		週当たりの延べ日数(日)		<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th colspan="2" style="text-align: center;">配置されていない場合の対応</th> </tr> <tr> <td style="width: 70%;">ア 定期的に派遣されている。</td> <td style="width: 30%;"></td> </tr> <tr> <td>イ 必要に応じて派遣されている。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>ウ なし</td> <td></td> </tr> </table>	配置されていない場合の対応		ア 定期的に派遣されている。		イ 必要に応じて派遣されている。		ウ なし	
人数(人)													
週当たりの延べ日数(日)													
配置されていない場合の対応													
ア 定期的に派遣されている。													
イ 必要に応じて派遣されている。													
ウ なし													

4-3-②平成26年度のスクールソーシャルワーカー等の福祉の専門家の配置状況について、人数や日数を記入してください。配置されていない場合は、対応について当てはまるものに○を付けてください。

配置されている	配置されていない												
↓	↓												
<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 70%;">人数(人)</td> <td style="width: 30%;"></td> </tr> <tr> <td>週当たりの延べ日数(日)</td> <td></td> </tr> </table>	人数(人)		週当たりの延べ日数(日)		<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th colspan="2" style="text-align: center;">配置されていない場合の対応</th> </tr> <tr> <td style="width: 70%;">ア 定期的に派遣されている。</td> <td style="width: 30%;"></td> </tr> <tr> <td>イ 必要に応じて派遣されている。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>ウ なし</td> <td></td> </tr> </table>	配置されていない場合の対応		ア 定期的に派遣されている。		イ 必要に応じて派遣されている。		ウ なし	
人数(人)													
週当たりの延べ日数(日)													
配置されていない場合の対応													
ア 定期的に派遣されている。													
イ 必要に応じて派遣されている。													
ウ なし													

教育支援センター(適応指導教室)の実態調査について

問5 活動内容等

5-1 目標

次に挙げる援助目標のうち、貴センターにおいて重要と考えているものについて、主なもの三つに○を付けてください。

援助目標	○印	援助目標	○印
ア 社会的自立		イ 協調性・社会性の獲得	
ウ 学校復帰		エ 自主性・自発性の育成	
オ 対人関係の改善		カ 生活習慣の獲得	
キ 自信・自尊感情を持たせる		ク 学力面の保障	
ケ 居場所の提供			

5-2 活動内容

現在行っている活動について、当てはまるもの全てに○を付けてください。

選択肢	○印	選択肢	○印
ア 個別の学習支援		イ 授業形式(講義形式)による学習支援	
ウ 社会体験(見学、職場体験など)		エ 自然体験(自然観察、農業体験など)	
オ 調理体験(昼食づくりなど)		カ 芸術活動(音楽、美術、工芸など)	
キ スポーツ		ク 宿泊体験	
ケ 子供たちによるミーティング(行事の実行委員会等を含む)		コ 学習成果、演奏や作品などの発表会	
サ 相談・カウンセリング(子供からの相談対応)		シ 相談・カウンセリング(保護者からの相談対応)	
ス 家庭への訪問		セ その他特色ある活動 (例)ボランティア活動等…下欄に記述してください。	

5-3 学習カリキュラムの有無

学習活動に関しての学習カリキュラムについて、当てはまるものに○を付けてください。

ア 学習カリキュラム(週ごとの時間割を含む)を決めている。	
イ 学習カリキュラムは決めていない。	

5-4 学習教材

子供たちが学習する際に使用しているもの全てに○を付けてください。

ア 教科書		イ 市販の教材(子供が持参)	
ウ 市販の教材(教室で用意)		エ 職員が独自に作成・用意したもの	
オ その他…右欄に記述してください。			

5-5 活動日及び活動時間について

活動している曜日及び時間帯について、当てはまるものに○を付けてください。

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
午前のみ						
午後のみ						
終日						

教育支援センター(適応指導教室)の実態調査について

問6 平成26年度における家庭への訪問指導

6-1 家庭への訪問指導の有無

家庭への訪問指導の有無について、当てはまるものに○を付けてください。

ア 実施している		イ 実施していない	
----------	--	-----------	--

6-2 訪問指導の担当職員等

家庭への訪問指導をした職員について、人数を記入してください。

訪問指導を実施した職員の人数(人)	
家庭への訪問指導の対象児童生徒の人数(人)	

6-3 訪問指導の頻度

家庭への訪問指導を行う頻度について、当てはまるものに○を付けてください。

ア 週に1回	
イ 2週間に1回	
ウ 月に1回	
エ その他…具体的に記述してください。	

教育支援センター(適応指導教室)の実態調査について

問7 運営に係る経費等

7-1 活動日の昼食について

活動日の昼食について、当てはまるものに○を付けてください。

ア 弁当持参		イ 給食(自費)	
ウ 給食(教育委員会負担)		エ なし	

7-2 子供一人あたりの経費負担

活動費等の児童生徒の負担について、給食費を除いた子供一人当たりの平均月額を記入してください。ただし、体験入学や事前相談等の費用は除きます。

小学校(円)	円	中学校(円)	円
--------	---	--------	---

教育支援センター(適応指導教室)の実態調査について

問8 施設等について

8-1 施設の所有

貴施設について、当てはまるものに○を付けてください。

ア センター独自の施設である。		イ 学校の一部を借用している。	
ウ その他の公共施設の一部を借用している。		エ 民間施設を借用している。	

エと回答した場合は、平成26年度の1ヶ月当たりの施設の平均借料を記入してください。(円)

1ヶ月当たり平均借料(円)	円
---------------	---

問9 運営に係る評価について

9-1 評価の有無

センターの運営の評価について当てはまるものに○を付けてください。

ア 評価している		イ 評価していない	
----------	--	-----------	--

9-2 評価者

9-1において「ア 評価している」と回答した場合は、評価者を記入してください。

--

9-3 評価指標

9-1において「ア 評価している」と回答した場合は、評価指標を記入してください。

--

教育支援センター(適応指導教室)の実態調査について

問10 学校との連携

10-1 通級している児童生徒に関する学校との連携

通級している児童生徒への支援等について、貴センターと学校がどのように連携しているか当てはまるもの全てに○を付けてください

選択肢	○印
ア 通級の実績や支援の状況等に関して、定期的な文書により情報共有を行っている。	
イ 通級の実績や支援の状況等に関して、教職員と貴センター職員との定期的な面談を通して、情報共有を行っている。	
ウ 学校が主催する通級児童生徒の支援会議に、貴センター職員が参加している。	
エ 貴センターが主催する通級児童生徒の支援会議に、教職員が参加している。	
オ 通級児童生徒が在籍する学校や学級で使用しているプリント資料等を、貴センターでも活用している。	
カ 通級児童生徒の学習の評価や指導要録への記載の在り方等について、教職員と貴センター職員が協議するなどしている。	
キ 通級児童生徒の進路指導について、教職員と貴センター職員とが協議を行い、連携して行っている。	
ク その他…下欄に記述してください。	

10-2 児童生徒を通級に結び付けるための学校との連携

不登校の児童生徒を貴センターへの通級に結び付けるために、貴センターと学校はどのように連携していますか。当てはまるもの全てに○を付けてください。

選択肢	○印
ア 不登校児童生徒や保護者に、教職員が貴センターの紹介等を行っている。	
イ 不登校児童生徒や保護者に、貴センター職員が貴センターの紹介等を行っている。	
ウ 不登校児童生徒や保護者に対して、貴センター職員が継続的な面談等を通して支援を行っている。	
エ 不登校児童生徒や保護者に対して、貴センター職員とは別の心理職等が継続的な面接を通して支援を行っている。	
オ 貴センターが主催する不登校児童生徒の支援会議に、教職員が参加している。	
カ 学校が主催する不登校児童生徒の支援会議に、貴センター職員が参加している。	
キ その他…下欄に記述してください。	

10-3 不登校の未然防止等のための学校との連携

学校における不登校の未然防止等の対策のために、貴センターと学校はどのように連携していますか。当てはまるもの全てに○を付けてください。

選択肢	○印
ア 児童生徒の不登校の未然防止等を目的として、貴センターと学校が定期的に情報共有等を行っている。	
イ 児童生徒の不登校の未然防止等を目的として、学校からの要請等があった場合に、貴センターと学校が情報共有等を行っている。	
ウ 学校が主催する不登校の未然防止等を目的とする会議に、貴センター職員が参加している。	
エ 貴センターが主催する不登校の未然防止等を目的とする会議に、教職員が参加している。	
オ 学校が主催する不登校の未然防止等を目的とする研修会に、貴センター職員が講師や助言者等として参加している。	
カ 貴センターが主催する不登校の未然防止等を目的とする研修会に、教職員が参加している。	
キ その他…下欄に記述してください。	

教育支援センター(適応指導教室)の実態調査について

問11 教育委員会との連携

11-1 通級児童・生徒への指導に関する教育委員会との連携

通級している児童生徒への指導に関して、貴センターと教育委員会はどのように連携していますか。当てはまるもの全てに○を付けてください。

選択肢	○印
ア 通級の実績や支援の状況等に関して、定期的な文書により情報共有を行っている。	
イ 教育委員会の職員等が定期的に貴センターを訪問して、情報共有を行っている。	
ウ 教育委員会の職員等が貴センター内に在勤するなどして、常時情報共有を行っている。	
エ 貴センターが主催する通級児童生徒の支援会議に、教育委員会の職員が参加している。	
オ 教育委員会が主催する通級児童生徒の支援会議に、貴センターの職員が参加している。	
カ その他…下欄に記述してください。	

11-2 不登校対策の推進に関する教育委員会との連携

教育委員会における不登校対策の推進に当たって、貴センターと教育委員会はどのように連携していますか。当てはまるもの全てに○を付けてください。

選択肢	○印
ア 教育委員会が主催する不登校対策推進のための会議に、貴センター職員が参加している。	
イ 教育委員会が主催する不登校対策推進のための研修や講演会等の事業に、貴センター職員が参加している。	
ウ 教育委員会が発行する不登校対策のための資料等の作成に、貴センター職員が関わっている。	
エ その他…下欄に記述してください。	

問12 在籍者への情報提供

12-1 在籍者に対して、貴センターではどのような情報を提供していますか。当てはまるもの全てに○を付けてください。

選択肢	○印
ア 各種相談窓口のパンフレットを掲示や配布している。	
イ 地域の学習支援に関する案内等を掲示や配布している。	
ウ 高校、大学等の進路に関するパンフレットを掲示や配布している。	
エ 就労機関(ハローワーク)のパンフレットを掲示や配布している。	
オ フリースクール等、不登校児童生徒の支援機関のパンフレットを掲示や配布している。	
カ その他…下欄に記述してください。	